

リ心ナリ二十八品ハ用也二十八品ハ助行也題目ハ正行也正行ニ助行ヲ攝ス可キ也「御義下五十四」有智無智ヲ嫌ハズ一同ニ他事ヲ捨テ南無妙法蓮華經ト唱フベシ「報恩抄一五〇九」

釋尊ノ因行果徳ノ二法ハ妙法蓮華經ノ五字ニ具足ス我等此五字ヲ受持スレバ自然ニ彼ノ因果ノ功徳ヲ讓リ與ヘ給フ「本尊抄九四二」

今又以如此文者日蓮也子者日蓮弟子檀那也世界者日本國也益者受持成佛也法者上行所佛ノ題目也「御義下六十オ」

經云如我等無異等云々法華經ヲ得心者ハ釋尊ト齊等ナリト申文ナリ乃至今法華經ノ行者ハ其中衆生悉是吾子ト申シテ教主釋尊ノ御子ナリ教主釋尊ノ如ク法王トナラン事難カルベカラズ但不孝ノ者ハ父母ノ跡ヲツガズ乃至民ノ現身ニ王トナルト凡夫ノ忽ニ佛ニナルト同ジ事ナルベシ一念三千ノ肝要ト申ハコレナリ「日妙上人書八六二」當家の宗骨たる這固の目に至りては吾人後輩の敢て論究するに及ばざる事遠し、而も是れを述べ

ずんば題目に違す、故に吾人は祖判を以てせんと欲し右に諸御書を列す、即ち先づ吾人の對境と爲すべき法体を掲げ、次に其に對して如何に修行すべきかを述べ、後に信行成就し果を証する事を得て、遂に彼の法体に一如する事を得るあり、此處に於てか凡身即佛身を成じて煩惱即菩提あり、又同時に娑婆即寂光の本國土妙を實現するに至る戲乎、大哉本化の道や。

當知吾人の成佛を期するもの若し信なく行なくんば智解如何に進み其說如何に巧妙にして縷々千言萬説を費すとも竟に机上の空論泡説と爲らんのみ、須らく信を篤うし、以て本化の教理を學び、契理の修行精進し信解行滿すれば、期せずして四八の妙相を具し娑婆即寂光の本國土に遊戯快樂するを得ん。

■豈離伽耶別求常寂

亮

遠

おもひきやさめこし峯のあたにして

花のさかりをわのがささ、は